

# 名セリフから観る ゴッドファーザー

マーク・ピーターセン

(金沢星稜大学教授)

シェイクスピアは言うに及ばず、優れた作品は、巧みなセリフであふれている。ゴッドファーザー・シリーズの名言も、数々の名シーンとともに、永遠の命を与えられてきた。英語と英語圏の文化について、日本語で論じ続けてきたアメリカ人が考える名セリフの秘密とは？



愛馬カートウームの首を前に驚愕するジャック・ウォルツ。Photofest/Aflo

元アメリカ大統領バラク・オバマは、そのウイットに富む極めて優れた人間性が高く評価されている。私も、当然のことながら同感だ。加えて、二〇一〇～二一世紀にアメリカ大統領を務めた二三人の中で、知性・教養・知識・共感力・人間性・趣味の面で、ジョン・F・ケネディと肩を並べる唯一の人間はオバマしかいないと、彼

的腐敗や価値観の歪み、家族の崩壊なども見事に描かれている。

さらに言えば、マフィアという暴力組織を、次々と事件を起こす悪党としてではなく、くるな人間たちの集団として描き出してしまうところも見事だ。このようなマフィアの正当化には映画の製作段階から賛否があつたと伝えられるが、アメリカに移民としてやってきたイタリア人が受けた差別こそ邪惡なもので、組織を作つて自分たちを守ろうとするのが当然である……どうせ政治家などもつと腐敗しているのだから、というように一般的な価値観と常識を超えた、有無を言わせない説得力がある。

セリフには、イタリア人に對する強い軽蔑を表す言い回しがいくつもあるが、最初に出てくるのは「ファミリー」に雇われている弁護士トム・ヘイゲン（ロバート・デュヴァル）が、イタリア系の歌手ジョニー・フォンテン（アル・マルティーノ）を映画に起用してほしいと、ユダヤ人ハリウッド・プロデューサーのジャック・ウォルツ（ジョン・マーレイ）を説得しようとする場面である。これに対し、ウォルツは次のように断る。

“Johnny Fontane will never get that movie! I don't care how many dago, guinea, wop, grease-

が大統領に就任して以来深く確信している。

そんなオバマが二〇一六年に、自分のこれまで観ておいた映画の中で一番好きな一本に、『ゴッドファーザー』と『ゴッドファーザー PART II』を挙げたときに、私は改めて彼への敬意を確認できてうれしく思った。

## 作品を彩る俗語

ball goombahs come out of the woodwork!”  
(パリー・ファンテーンには絶対に役をやらせない。さへも「貴様のような」脂あつたdago, guinea, wop のちんぴらが陰から這い出して、ようとな)

この“dago”と“guinea”と“wop”は、どちらもイタリア人に對する蔑称で、かなり不快な言い方である。“greaseball”（油の固まり）は、通例ラテン系の移民に對する蔑称で、ポマードをよく使うからか、もしくは脂っぽい肌を指すのか、定着している表現である。“goombah”は一般的にはあまり知られていないが、「マフィアのちんぴら」を示す俗語だ。プロデューサーのこのセリフの面白さと迫力は、“dago, guinea, wop, greaseball goombahs”とこう五つの軽蔑語の連発に、まるでカキブリが流し台の下からゾロゾロ這い出してくるようなイメージの“come out of the woodwork”（壁と蛇腹との隙間から現れる）とこう表現まで付け加えたところにある。

これを受けたトムは冷静に、そして小さな声で“Im German-Irish.”（私は、ドイツとアイルランド系です）と、自分自身はイタリア系ではないうことを指摘する。すると、ウォルツはたじ

ける。“kraut”はドイツ人がよく食べる塩漬け発酵キヤベツ、ザウアークラウトをふまえたドイツ人に対する蔑称で、“mick”はアイルランド多い男子の名 Michael の愛称形の転用でアイルランド人に対する蔑称である。

しかし、イタリア系移民がアメリカで直面した偏見をさらに具体的に描き出しているのは、『ゴッドファーザー PART II』である。特に印象的なのは、ネバダ州選出の上院議員（G·D・スプラドリン）がマイケル（アル・パチーノ）に賄賂を要求する場面である。

“I intend to squeeze you. I don't like your kind of people. I don't like to see you come out to this clean country in your oily hair, dressed up in those silk suits, trying to pass yourselves off as decent Americans.

（お前からたっぷり金を絞り出すつもりだ。お前たちのような奴は好かん。ポマード頭で絹のスーツを着て、この清潔な州に来て、ちゃんとしたアメリカ人でいるふうで顔をしやがつて不愉快だ）

上院議員のこのセリフに對して、マイケルは“Senator, we're both part of the same hypocrisy.”（私は同じ穴のムジナじやないかね、議員先生）と応える。『ゴッドファーザー』は一九七二